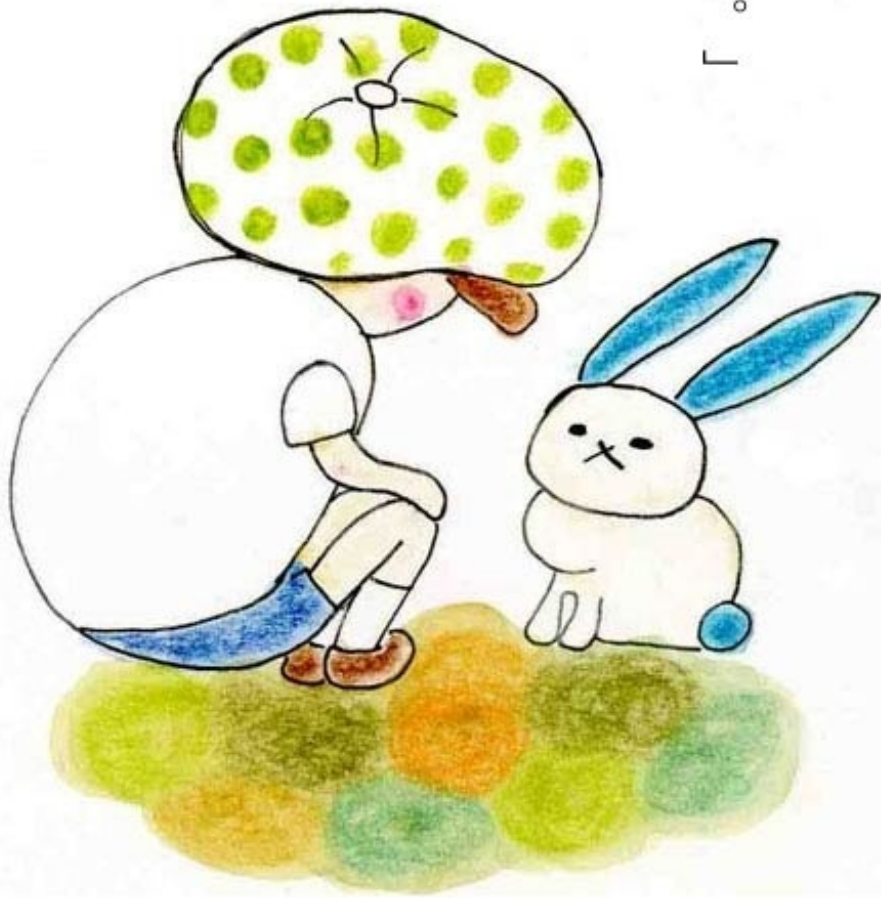




いぬのえいごの註読本

「きみが人間の友達だったらいいのに。」

ある日、
おとこのこが
言いました。

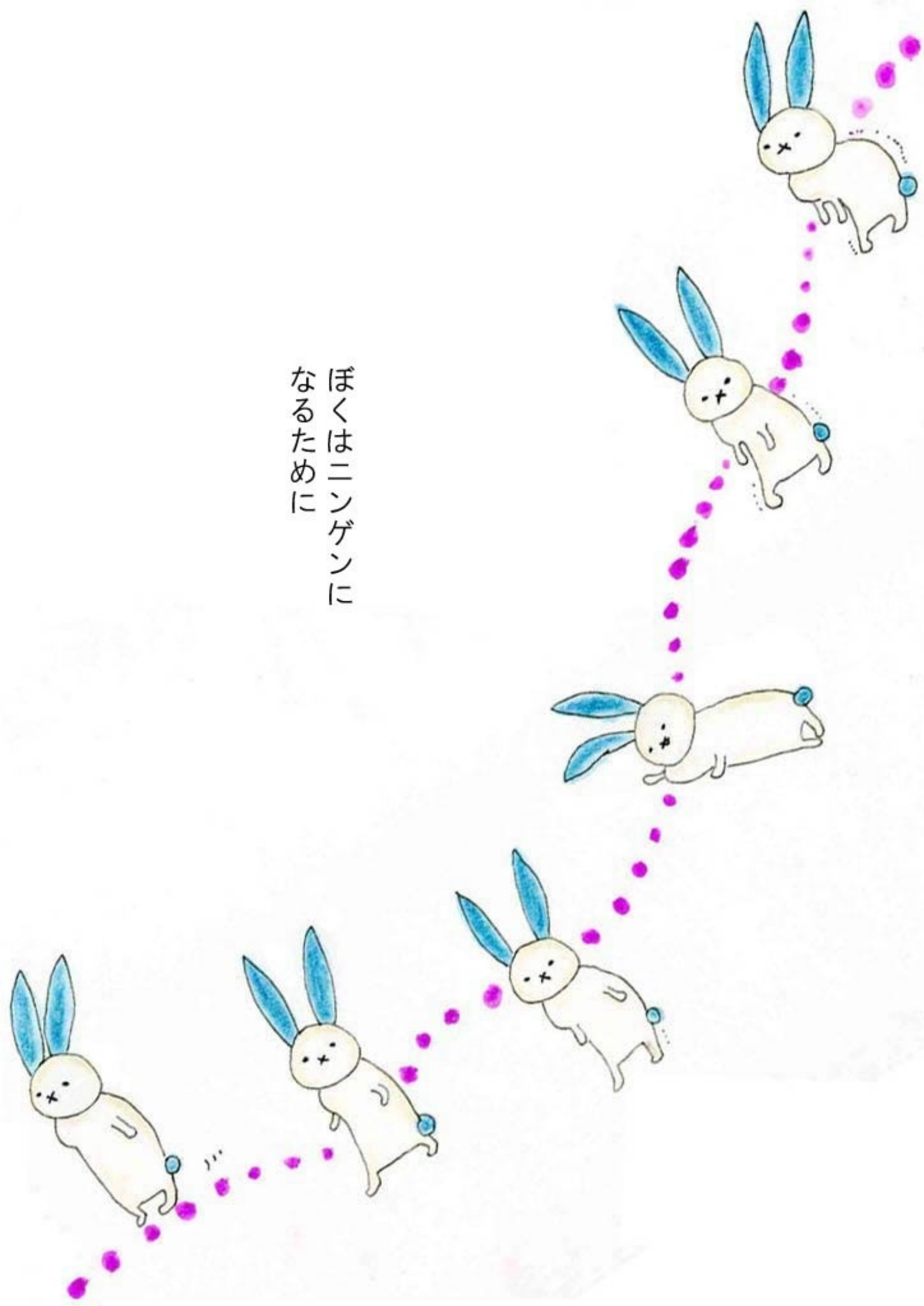


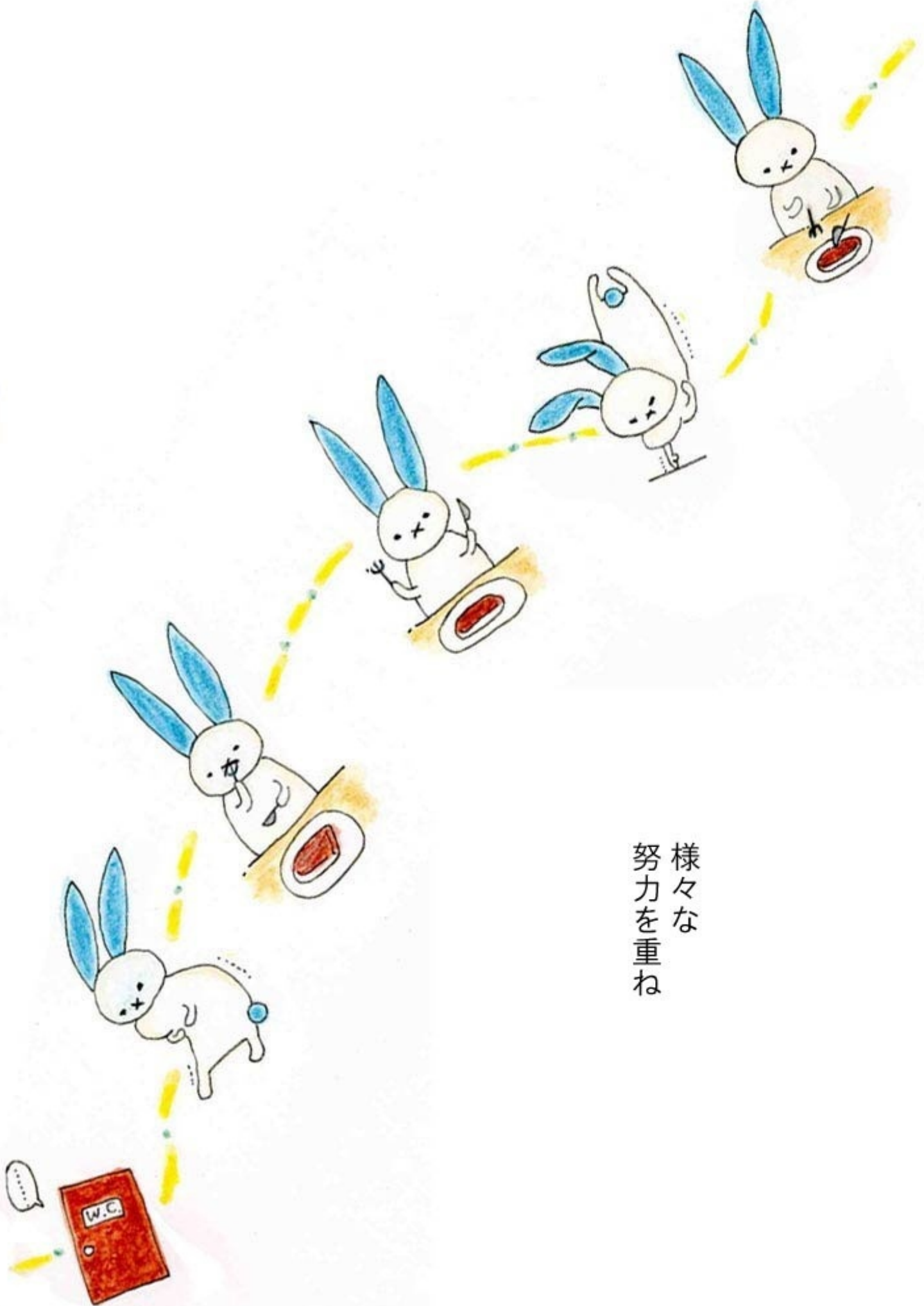
「そうか。
そうだったんだ。」

ぼくは
ニンゲンになることに
決めました。



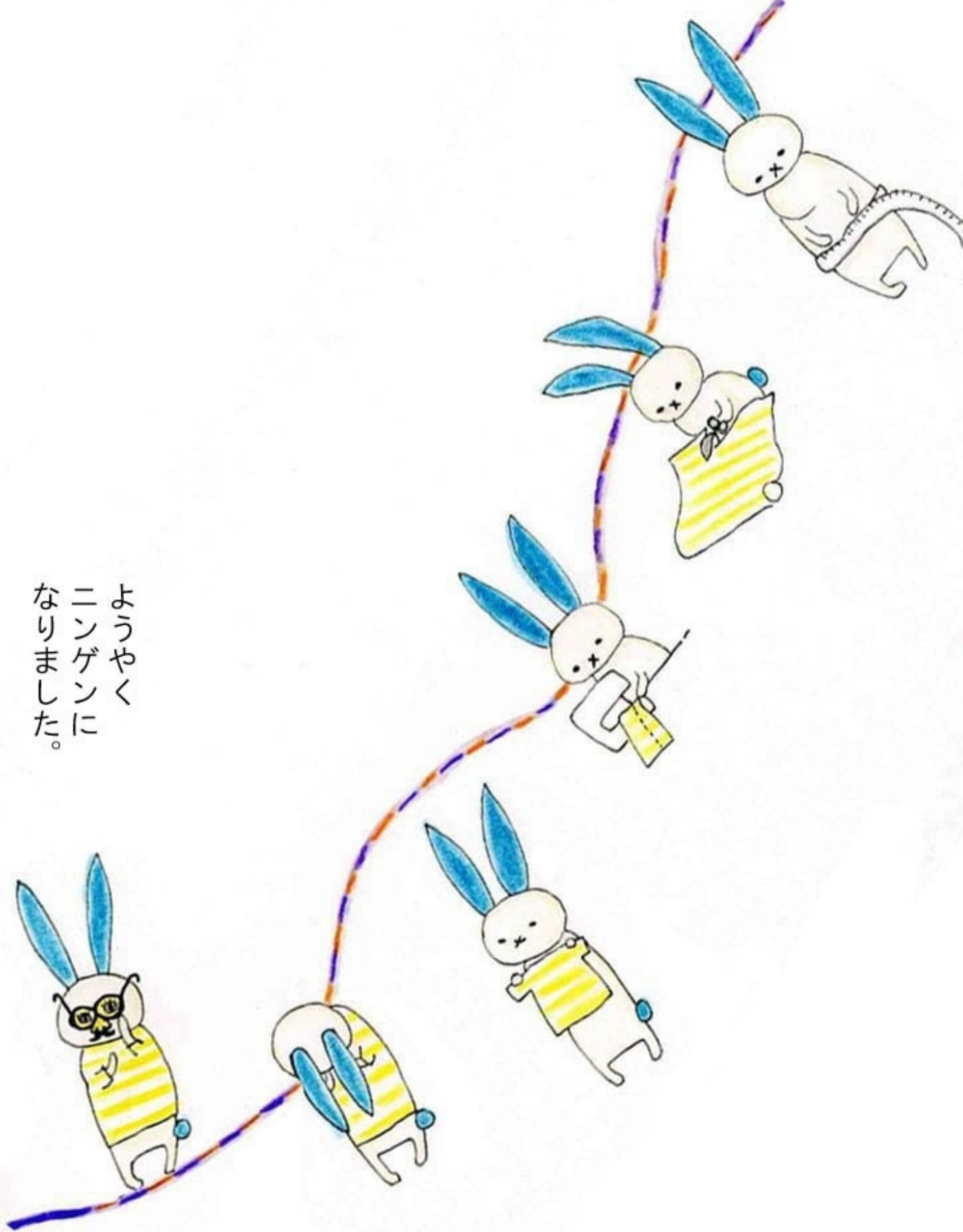
ぼくはニンゲンに
なるために





様々な
努力を重ね

ようやく
ニンゲンに
なりました。



ぼくは
野原へ
走って
いきました。

「おい
みて
みて！
ぼくは
ニンゲン
にな
ったよ！」



「おーい・・・」

「コラッ！
宿題もやらずに
遊んでばかり！」



おとこのこが
叱られて
泣いていました。



「シユクダイ・・・？」

考えても
わかりませんでした。

「シユクダイをしないと、
しかられるんだ。」

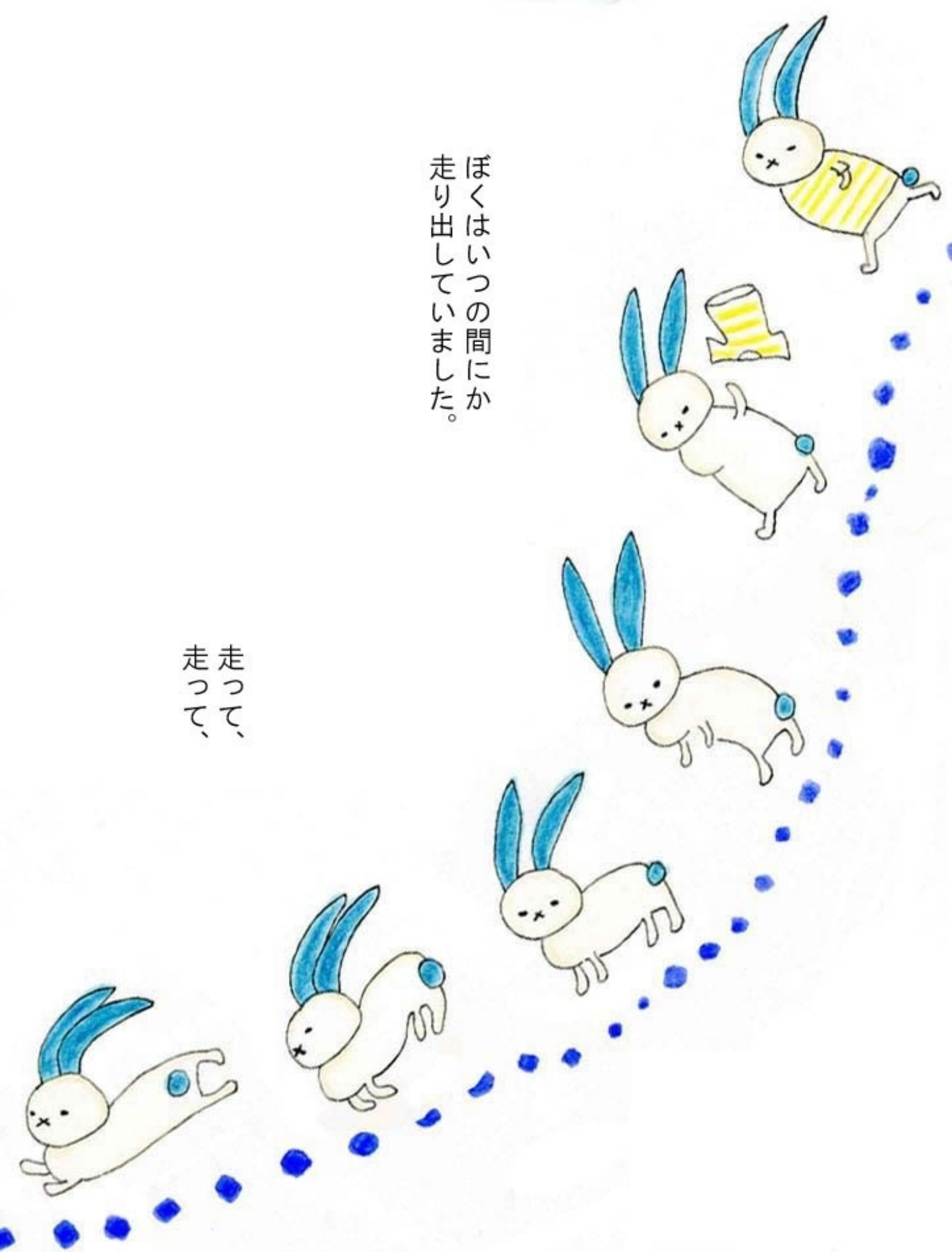
ぼくは、
とても怖くなりました。



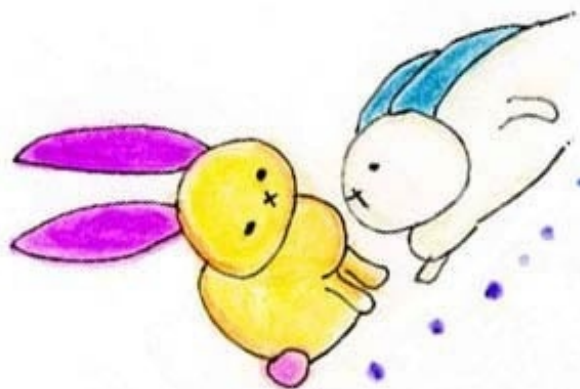
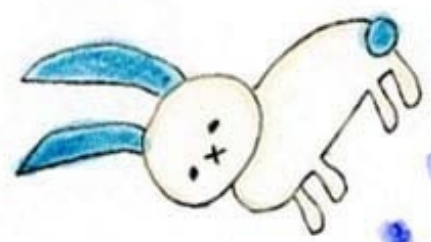


ぼくはいつの間にか
走り出していました。

走って、
走って、

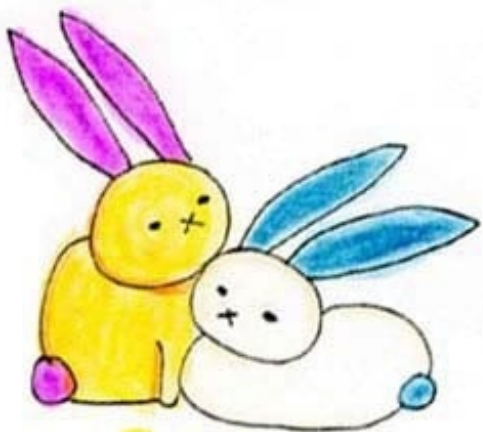


走りつかれた
ぼくは、



いつの間にか

恋をして





家族ができました。

